

職員の皆さんへ

早くも暦の上では9月ですが、相変わらず厳しい暑さが続き、市民の健康管理や農作物の早魃被害、そして生活用水の確保など様々な心配事が想起されます。その一方で、8月6日にスタートしたリオデジャネイロオリンピックでは、日本選手団全員によるそれぞれの種目における大活躍によって、史上最多となった41個のメダル獲得など、すべての国民に連日熱戦の興奮と爽やかな余韻を残してくれました。また9月8日から始まるパラリンピックでは、いずれの選手も厳しい身体のハンデを乗り越えて、各種の競技に懸命の挑戦を成し遂げて最大級の感動を与えてくれるものと大きな期待が寄せられます。

本市でも各種スポーツ部門において児童生徒の活躍が注目されました。平戸中学校野球部が県大会で優勝を飾るという快挙をはじめ、平戸中学校女子柔道部の松浦ゆうきさんが個人の部で、山田小学校空手部の上村龍我君、破戸峻佑君がそれぞれ組手部門で県大会優勝という栄冠に輝きました。また、水泳個人の大島鳳君や生月中学校空手部、中部中学校女子剣道部、田平中学校男子柔道部などが県代表として全国大会出場を果たしています。

さらに鄭成功をご縁とした第二回目の中国南安市・台南市・平戸市の中学生卓球大会が南安市で開催され、有意義な国際親善交流が実現しました。

こうした若い世代のスポーツを通じた友情が国境を超えて将来にわたって続くことで、青少年の健全育成と市民の感動につながることを期待します。

さて真夏の平戸観光の盛り上がりにつきましては、(株)JTB九州のご協力もあって、様々なマリンレジャーや平戸城および松浦史料博物館を舞台とするお化け屋敷など、平戸ならではの魅力ある体験メニューが高い評価を受けて、これら旅行商品に3千人を超える申し込みがあるなど昨年引き続き大きな実績を収めることができました。

また福岡市の大手進学塾・英進館のキッズレジャーも例年通り開催され、暑い日中にもかかわらず平戸の雄大な自然を舞台にしての活動は思い出に残るものとして、さらに多くの平戸ファンを増やせたものと手ごたえを感じております。

現在わが国と国民は、人口減少時代の到来を受け止めながら、全ての自治体において「地方創生・地域総合戦略」という枠組みの中で、少子高齢対策や産業振興や自立した地域づくりに知恵を出し、汗をかいていますが、ここで重要なことは、「地域独自のストーリー性」と「発信力」であると思います。

これまでも国から地方創生推進交付金事業が提示され、それぞれの自治体から興味深い採択事業が出ていますが、それらをよく見ると斬新で魅力的なものがある一方、表現が好ましくないかもしれませんが「既存事業の看板の付け替え的」なものも見受けられます。でもそうした事業がなぜ採択を受けているかと云えば、それは先ほど挙げた「地域独自のストーリー性」だと思います。

一つの事業だけでは広がりが少ないものを複合的・多面的な効果を出すために横軸に展開していく仕組みを構築し、そしてそれらが陸上競技のリレー走者がバトンを渡してドラマを展開していくような「地域独自のストーリー性」として仕上げることであれば、国の採択事業として認められるのではないのでしょうか。

また「発信力」についても、これは言うまでもなく発信した内容が受け手にとって興味深いものであるかどうか、共感できるものであるかが問われると思います。いくら根気強く発信し続けたとしても、それを受ける側が関心を示さない限り「馬の耳に念仏」となります。新しい感覚で誰もがワクワク感を味わえるような魅力を内包してこそ、発信する中身に注目と感動があるのではないのでしょうか。

これからのまちづくりには、従来の「縦割り型」「専門特化型」ではなく、「横串連携型」「柔軟応用型」への発想の転換が前提となります。そして地域への思いや夢は「膨らむ」ものでなければなりません。膨らませるためには、「固定観念」という枠を取り払い、時代に応じてどのような対応ができるかをじっくり考え想像し、「膨らむ」エネルギーを注入し続けなければならないと確信します。

平戸市にはふるさと納税制度を通してたくさんの財源が全国から寄せられました。これらをどう使うか、市民の皆さんにどのように使ってもらうか、ここが次なる勝負どころとなることは言うまでもありません。

当然、慎重な姿勢や視点は必要ですが、望まれる改革や改善を熟慮する上では、枠組みを外して本質を見つめなおすということが重要です。どうかその勇気を持っていただきたい。その熟慮の先に想定されるリスクや批判も描き、そして受け止めて論破するぐらいの情熱を抱いて欲しいと思います。もしそのリスクについて第三者に説得もしくは理解を求める困難な作業があるとすれば、そんな時にこそ、私と行動を共にして果敢に取り組んで成果を挙げましょう。

さて来週 5 日から始まる 9 月市議会でご審議いただく予定の補正予算のほか、各種重要な議案に加え、平成 27 年度決算認定議案などもあり、これまで取り組んできた各種事業の成果が問われる重要な議会となりますので、各課とも緊張感をもって審議に臨んでいただきたいと思います。

引きつづき様々な分野において市民と協働し、文字通り「稔りの秋」となりますようともに頑張ってください。

職員皆様のご努力に期待します。

平成 28 年 9 月 1 日

平戸市長 黒田 成彦